

広島の実験を世界の防災・減災に役立てる

レポーター ひろ記者 津森正裕、高村秀樹

平成26年8月豪雨、平成30年7月豪雨、令和3年8月豪雨と、多くの災害に見舞われてきた広島市。同様に世界でも地震や豪雨災害により、毎年多くの被害が発生しています。特に、社会インフラや防災インフラが十分に整備されていない開発途上国では、その被害も甚大です。(特活) ひろしまNPOセンター理事でプロダクトマネージャーを務める増田勇希さんに活動をお聞きました。



▲増田勇希さん
また、ひろしまNPOセンター理事でプロダクトマネージャーを務める増田勇希さんに活動をお聞きました。

〈開発途上国からの研修生が被災現場を直に歩く〉

(特活) ひろしまNPOセンターでは、広島の実験経験、その後の復興や地域防災への取り組みを学び合うことで、開発途上国の防災・減災の取り組みに少しでも寄与したいという気持ちから、毎年、JICA(独立行政法人国際協力機構) 中国センターの委託を受け、行政や地域にも協力を仰ぎ、開発途上国の防災行政官向けの研修を実施しています。



▲砂防ダムを見学

研修では、安佐南区や安佐北区の被災地域に直接訪問し、地域を歩きながら当時の様子を伺うだけでなく、住民に交じって地域防災訓練へも参加をするほか、災害後に完成した砂防ダムや、改修後の河川の視察など、防災インフラについても学びます。また、広島市役所や広島

地方気象台への訪問など、多様な関係者と意見交換を行うことで、それぞれの国に合った防災・減災の形を模索します。

〈日本の防災組織・取り組みを自国で生かす〉

これまで、バングラディッシュ、ラオス、シエラレオネなどアジア・アフリカの11ヵ国から約60名を招き研修を実施してきました。参加者からは「改めて災害の恐ろしさを知り、日々の備えの重要性を理解した」、「地域における自主防災会設置や防災士育成など、母国では見られない取組なので、小さくてもいいから自分の国でも取り組んでみたい」など、毎回多くの気づき・発見について意見が挙がります。中には帰国後に実際に広島から得たことを踏まえ、地域住民向けの研修会を実施したなど、嬉しい報告が寄せられることもあります。



▲避難訓練で簡易雨具を作製

また、研修を受け入れてくれる地域や講師の皆さんにとっても、研修員との意見交換をとおり、これまでと違う視点を得ることで、改めて自分たちの活動を振り返る、自信を得る機会にもなっていると感じます。当センターでは、国や地域が異なる中でも、互いに災害の被害を少なくし、より良い地域を作っていくために、今後も広島の実験経験を少しでも伝え、互いに学び合える機会を作っていきたいと思います。

「ひろ記者」とは、市民自らが地域のまちづくり活動やイベントなどを取材し発信していく、広島の実験レポーターです。
▶ <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/14/7197.html>



らっしゅくコラム

Rashikku column

組織的にリスクと向き合うなかで自身の「態度」を形成する

2014年8月20日未明に広島市安佐南区・安佐北区で発生した「平成26年8月豪雨」から、昨年で10年となりました。被災した地域では砂防堰堤や広域避難路などハード面の整備が進み、ソフト面でも、線状降水帯などの情報や知識は以前と比べて知られるようになったと思います。また、最も多くの方が亡くなった安佐南区の八木・緑井地区には2023年9月1日に「広島市豪雨災害伝承館」が開館し、災害の事実だけでなく被災者の記憶や語りを未来の防災・減災に活かそうとする取り組みが行われています。

21世紀は「新しいリスク社会の到来」といわれます。新しいリスクとは、滅多に起きないけれど、いったん発生すると社会に壊滅的な打撃を与えるという性質をもっており、すべての人びとが体験自体を共有できないため、「記憶にないリスクを社会としてどう受け止めていくか」が課題となります。他人の体験から学ぶとき、重要なのはリアリティよりもその人ならではのオリジナリティです。一見リスクそのものとは関係なさそうな個人的なエピソードがきっかけで「自分ごと」になることがあるので、主語やコンテキスト(文脈)が重要です。

すでに数多くの災害が発生していることに加えて、気象や地質についての調査・研究は進められており、災害が発生する危険性が高い場合は事前に情報が届けられるようになっています。しかし、リスクに関する情報は知らなければならないものである反面、理解が難しかったり深く考えたくなかったりで伝わっていきません。正常化バイアスは心の平穏のために必要な機能で

あり、深刻な問題に個人々で立ち向かうには限界があります。少なくとも、個人的に「大問題だ」と思っていることが、実は自分だけの問題ではなく社会全体の問題であり、最終的に対処・対応するのは個人々だけれど、考えるプロセスにおいては皆で共有することによって、孤独感や無力感が薄れ、立ち向かう勇気が湧いてくるのではないかと思います。これが、個人ではなく組織として防災に取り組んでいく意義です。

実は、広島はすでに被爆体験の継承でこの取り組みを実践しています。私たちは被爆者の体験談から、戦争や原爆、そして平和に対する「態度」を学んできました。それは、それぞれの被爆者自身を主語にした体験談から、それを通して受け手である自分自身がどのように考えるかに昇華していく作業でした。土砂災害の危険箇所が全都道府県で最も多い広島、そして、被爆者に依らない被爆体験の継承という課題をまさに今つきつけられている広島。共通する課題だと思っています。



Profile

比治山大学現代文化学部マスコミュニケーション学科 講師
山口 梨江

広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期単位取得退学。博士(学術)。専門は社会情報学、メディア論、リスク・コミュニケーション。広島市豪雨災害伝承館の展示検討委員会委員。「平成26年8月豪雨」の被災地を中心に被災者インタビューを行い、過去の被災の語りや未来の防災にどう活かすか等、柔軟かつ持続可能なリスク・コミュニケーションの研究を行っている。

ようこそ！ 公民館へ ～西区内公民館～

地域のみなさんの学習活動を応援する最も身近な施設「公民館」でまちづくりに関する活動をしているグループをご紹介します。

1 子ども日本舞踊つばみ

草津公民館

「子ども日本舞踊つばみ」は、毎月第1・第3日曜日の午後1時～3時に草津公民館で活動しています。挨拶や礼の仕方をはじめ、扇子やお道具を大切に扱うことや、浴衣の正しい畳み方や着方なども講師の先生に教えていただきながら、子ども達自身が一つ一つ丁寧に取り組んでいます。

始めは慣れない手つきの子も達でしたが、教えていただいたことを意識し、稽古を重ねていくうちに少しずつ上達が見られます。グループ活動では、美しい曲や踊りをとおして日本の伝統文化に触れ、「楽しく」「一生懸命」心も体も成長していくことを目指しています。

公民館まつりやフラワーフェスティバル、年に一度の発表会など日々の稽古の成果を発表する場もあり、特にお化粧や着物を着て踊る子ども達の姿はとても華やかです。

現在小学生3人、高校生1人でお稽古しています。なんだか敷居が高そう…難しそう…と思われる方がいらっしゃるかもしれませんが、講師の先生も保護者も、子ども達の頑張りと成長を温かく見守っています。興味のある方はいつでも見学にいらしてくださいね。



2 みささ日本語交流ひろば「にじいろ」

三篠公民館

外国籍の住民と日本人地元住民がコミュニケーションやイベント等での交流を通して、相

互理解を促進する目的で活動しているボランティアグループです。令和4年2月に公民館主催で開催した「やさしい日本語教室」をきっかけにグループを結成しました。毎月第1と第3の日曜日10時～12時に三篠公民館で活動しています。

最近ではSNSや公民館だより等でのPRにより外国人の参加者が増えました。中国、ベトナム、インドネシア、インドの方々には定着していて、ミャンマー、内モンゴル等の方々も参加してくれています。活動は外国人の要望に応じて、テキストを使っている日本語の勉強、日本語でのおしゃべり・ゲーム等をグループ別に行います。

イベント交流も楽しみの一つで、例えば夏には浴衣を着て大芝学区花火大会に参加したり、秋には三瀧寺の紅葉の下で、自分の国の手作り料理を交換しながら食べておしゃべりしたりします。多文化共生社会と言われる今日、双方向の関係でお互いに楽しくて学びあえる場を大切にしています。一緒に活動してくれる日本語ボランティアも募集しています。



3 スクエアダンスきらり

南観音公民館

「スクエアダンスきらり」は、昨年8月よりスタートしたサークルです。毎月第1と第3木曜日の10時から12時まで、月に2回活動しています。

スクエアダンスはアメリカ発祥のダンスです。8人で一つのチーム(セット)を作り、コーラー(指示をする人)の指示通りに音楽に合わせて踊るマスゲーム的なダンスです。曲はその時のダンサー(メンバー)を見て、往年のアメリカ映画ミュージックや懐かしの音楽を流しています。

他のダンスのように飛んだり跳ねたりするような激しい動きは無く、リズムに合わせて歩くことが主体のウォーキングダンスですので、子どもから大人までファミリーで楽しめ、日本だけでなく世界中で踊られています。

「スクエアダンスきらり」では常時会員を募集していますので、踊りの好きな方、興味のある

方、頭の体操と健康づくりのため一緒にスクエアダンスを始めてみませんか。体験や見学もできますので、お気軽にお越しください。



4 KOIスクエアーズ広島

己斐公民館

スクエアダンスは聞き慣れないダンスかと思いますが、広島では11のクラブサークルが活動しています。KOIスクエアーズ広島は2012年に設立し、現在24人で「楽しく」をモットーに活動しています。

スクエアダンスはアメリカ発祥のダンスで、4人のカップルが四角い隊形から踊り始め、合図に合わせて隊形を変えていくダンスです。普通のダンスと違う特徴は、ダンスの動きを指示する「コーラー」がいることで、決まった動きを指示するのではなく「コーラー」の指示で隊形を変えて、様々なジャンルの軽快な音楽に合わせて歩いて踊るウォーキングダンスです。

パーティーは広島だけでなく全国各地、時には海外でも開催されます。参加された方からは「もう少し早く知りたかった!」とお言葉も頂いています。

ぜひ一緒に楽しい脳トレを兼ねたダンスを始めてみませんか?毎週木曜13時～15時まで己斐公民館で活動していますよ!



グループへのお問合せについては、各公民館へお願いします。

- ① 草津公民館 …………… ☎082-271-2576
- ② 三篠公民館 …………… ☎082-237-3077
- ③ 南観音公民館 …………… ☎082-293-1220
- ④ 己斐公民館 …………… ☎082-273-1765

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。
地域活動やまちづくりのお手伝いに、
今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

川柳の普及 なかの たえこ
中野 妙子さん

喜怒哀楽を詠む川柳で 人生をより豊かに

子供の頃から国語や書くことが好きで、小学生の時に作文が学年代表に選ばれ、中学2年生で短編小説も書いたという中野さんが、川柳に出会ったのは今から30年前。「ご近所さんに誘われて公民館に行ったのが始まり。全くの未経験で課題を出されてもよく分からなかったんです。最初に詠んだ句は今でも覚えています」と当時を振り返ります。それからずっと川柳をたしなみ、色々なコミュニティに所属し活動しています。

代表を務める「フェニックス広島川柳会」では、合人社ウェンディひと・まちプラザで毎月第3日曜日に、川柳句会を開催しています。川柳は五・七・五で詠む定型詩。季語や切れ字といった俳句のルールが不要で、人間模様や社会風刺を口語体で表現します。「初心者にはいろはの『い』から始めるので、誰でも川柳を楽しめると思いますよ。難しく考えるのではなくユーモアのある句が良いですね。私は長く川柳をたしなんでいるだけで先生ではない、一緒に楽しんでいます」。川柳句会では、あらかじめ出された「課題」にちなんだ句箋が箱に入れられ中野さんが選句。没の句は白板に書き、時間の許す限り添削・勉強会を行います。入会して3ヶ月という女性からは「職場での何気ない会話や、孫と一緒にいる時も意識して、句に繋がる言



▲合人社ウェンディひと・まちプラザで開催されている川柳句会の様子

葉、表現できる言葉探しをしている。時にはじっくり考える時間がとても有意義という感想も聞かれます。川柳句会で選出した句は毎月発行される句誌「ふえにつくす」に掲載され、会員の励みとなっています。

「句を詠もうと思ったら、普段の生活が違ってくるんです。例えば電車内の赤ちゃんのしぐさ、それさえ立派な句にできる。動くもの、目に映るもの全てが句材になる」と川柳の魅力を熱く語り、人生の機微や喜怒哀楽を詠む川柳は、人生をより豊かなものにしてくれると言います。

人材バンクへは令和4年に登録し、今後は児童館の放課後クラブ等でも広めていきたいそうです。また、昨年は「第47回全国日本川柳2024年広島大会」の実行委員を務め、今年は震災から30年となる神戸で行われる第48回への参加者をバックアップするそうです。特にジュニアの部へ力を入れており「依頼があれば小学校にも教えに行きたい」と意欲を語ってくれました。



▲中野妙子さん



▲毎月発行される句誌「ふえにつくす」



▲小説やエッセイも書く中野さん。自身の半生をモデルにした小説も出版

まちづくりボランティア人材バンク達人を 紹介してもらうには・・・

まちづくりボランティア人材バンクは「自分の知識や技術を生かしてボランティア活動をしたい」達人と「ボランティアで来てほしい、教えてほしい」団体・グループとをつなげるシステムです。

現在 150 名余りの達人が約 180 件のボランティア活動で登録しています。令和 6 年 1 月～ 12 月の 1 年間に 340 件程度の達人紹介の申込みがあり、日程や活動内容等の条件が整った約 310 件が活動につながっています。

地域活動や手作りイベントなど市民の皆さんが活動する中で、「お願い!達人」という時は、お気軽にご相談ください。

1. 人材バンク紹介申込書の作成

どういう団体・グループが、いつ、どこで、誰を対象に、何をする行事なのか、

希望する達人を所定の申込書へ記入します。

●紹介申込書は、人材バンク登録内容リストや当プラザ HP、ひろしま情報 a-net から入手できます。

●申込書の作成が難しい場合はご相談ください。

2. 広島市まちづくり市民交流プラザへ申込み

当プラザへ、FAX、E メール、郵送、窓口へ持参のいずれかで申込書を提出します。初めて申し込まれた団体や詳しいことを確認したい時には、当プラザより連絡をさせていただくことがあります。

3. 当プラザから達人へ連絡・調整

紹介申込書の提出後、希望する達人へ当プラザから打診の連絡をし、紹介の可否を確認します。(連絡・調整には、1 週間程度かかります。)

4. 申込団体へ達人の連絡先をお知らせ

達人紹介の内諾が得られたら、達人の連絡先をお知らせします。達人との直接のやり取りのスタートです。速やかに正式な依頼の連絡を取りましょう。

シニア椅子ダンス講師 すずき
鈴木 あつ子さん

何歳になっても楽しめる！ 軽快な振り付けで椅子に座ってできるダンスを考案

椅子に座ったまま無理なく楽しめるシニア椅子ダンスを考案し、広めている鈴木さん。「70～80年代の洋楽に合わせてバラエティ豊かな振り付けで踊ります。ダンスを楽しんでいるうちに結果として良い運動になっていることが特徴ですね」と話します。

社交ダンス歴25年。そのうち10年間はプロに直接指導を受け、色々とダンスを楽しんできたものの、年齢を重ねるうちに高齢者でも無理なく楽しめるダンスはないかと考えるようになったそうです。ほどなくしてJDAC認定ダンス指導員(スポーツ庁・厚生労働省後援・ダンス教育振興連盟)の資格を取得。これまでの経験を活かし椅子ダンスの考案に乗り出しました。「シニアの方々の身体機能や体調に寄り添った無理のない振り付けを考え、安心して楽しんでもらえることを意識しています。ダンスを通じて健康維持のお手伝いができれば」と令和6年6月、人材バンクへも登録しました。

これまで公民館や病院、地域のイベントなどで行われた椅子ダンス。誰でも気軽に参加できるとあってダンス未経験者はもちろん、男性の姿も見られ、参加者からは「こういうダンスは初め



▲紙皿を持ち手の向きをより意識しながら椅子ダンス

てだったがリズムにのって体を動かすのはとても楽しかった」「右手と左手が同じように動かない箇所があることに気づけて良かった」「音楽がとても懐かしかった」など ▲鈴木あつ子さん

の感想が寄せられています。「皆さん笑顔で動いて、かけ声も大きく、とても盛り上がるんですよ」と微笑む鈴木さん。

合人社ウェンディひと・まちプラザでは、毎月1回「椅子に座ったままできるシニア向けダンス!サークル椅子ダンス」を開催しており、休憩を挟みながら行う60分のプログラムはじわじわとファンが増えています。「椅子に座ったままでも効果的に体を動かすことで、じわーっと汗もでます。膝にリスクがある人や、杖が必要な人でも大丈夫。肩甲骨周りを中心に動かすことで血行促進にも繋がります。椅子に座っているので転倒のリスクも低い。座ったままツイストもできるんですよ!」と声を弾ませます。

「何歳からでも大丈夫。リズムにのって体を動かすと気持ちも明るくなります。ダンスする楽しさをもっと広めていきたい」と希望に満ち溢れた鈴木さんの笑顔が印象的でした。



▲椅子ダンスの様子

5. 活動・イベント等の準備と実施

実施に向けて、達人との十分な打合せを行いましょう。しっかり相談すれば、お互いに良いアイデアが生まれます。いよいよ、活動・イベントの実施です。

6. 活動報告アンケートのお願い

活動終了後、当プラザよりアンケートをお送りします。実施結果や感想、写真、配布資料等を報告してください。その後の紹介に大変役立ちますので、ご協力お願いします。

まちづくりボランティア人材バンク発表会

仕事や趣味などで得た知識・技術などを生かし、ボランティアとして、助言・実技指導などを行う方々が「まちづくりボランティア人材バンク」に数多く登録されています。当プラザでは、市民グループなどからのご要望により、達人たち(登録ボランティア)の紹介・あっせんをしています。毎月第4土曜日は「人材バンク発表会」の日。達人たちの得意なテーマで講座や催しを開催しています。どなたでもご参加いただけ

ますので、どうぞ来館ください。

日時/4月26日(土)、6月28日(土)、7月26日(土)

毎月第4土曜日 午後2時～3時半

※時間は変更になる場合がございます。

※テーマはプラザ HP やチラシでお知らせします。

ボランティア紹介・登録などのお申込・お問い合わせは・・・

広島市まちづくり市民交流プラザ(合人社ウェンディひと・まちプラザ)

☎(082)545-3911 (082)545-3838

※当バンクは、政治、宗教、営利目的の活動での利用はできません。

※達人紹介は、団体・グループからの単発な活動に限ります。個人活動や長期継続活動への紹介はできません。

※達人は、実費弁償ボランティアとして活動します。交通費、資料代、材料費等の実費は、申込団体にご負担いただきます。